



Mais Brasil★

平成24年度 ブラジル通信
11月19日(月)~11月28日(水)
No. 11【ファイナル】
発行者：宮本 朋子

日本からの帰国児童生徒に関するプロジェクト作成！

パラナヴァイ地区州教育事務所に、帰国生徒の調査協力のお礼と活動報告に行ってきました。面談を通して、半分以上の子どもたちが、ブラジル文化（学校生活）と言語において問題を抱えており、心の居場所を必要としていました。半日しかない学校生活では、友達との関係作りも難しく、また子どもだけで外出するのが危ないことから、帰宅後は家にこもる子が多くいました。そんな同じ悩みや背景をもつ者同士が知り合える「帰国者の会」を開きたいと提案したところ、快く協力してくださることになりました。開催連絡については、州教育事務所から各学校にメール案内していただき、可能ならば校長先生、もしくは教務担当が同行するように指示してくれました。そのおかげもあり、教育局・学校関係者、支援団体のメンバー、帰国生徒とその家族など、総勢41人が参加し、盛大に会を行うことができました。



力を合わせていきましょう！



おいし～♪

パラナヴァイ市教育局長も参加してくれました

今回は第1回目ということで、会の進行を私が担当しました。この会を開くに至った経緯や目的を説明した後、豊橋の学校紹介DVDを見せたり、ゲームをしたりしました。最初は、固い雰囲気もありましたが、ゲームを通して少しずつ打ち解けることができました。会の終わりには、自分と同じ帰国者と知り合えてうれしい、ぜひこの会を続けてほしい、という声があがり、関係者も今後も継続していきましょうと、思いを1つにすることができました。



罰ゲームで自己紹介

遠くの町から来た人もいました



パラナヴァイ帰国者の会

夜遅くなってしまったため、先に帰った人もいました

そこで、クリチバでも第2回帰国者の会を計画しました。しかしながら、個人で連絡・運営するのは難しく、結局参加者は4人しかいませんでした。パラナヴァイのように、支

援団体を中心に学校＝子ども＝家庭を結びつけて会を開けないかと思い、ABD（ブラジル出稼ぎ協会）の会長、パラナ州教育局長、連邦大学外国語学部長、加藤てるお州議員に会いに行き、協力要請をしました。どの方もこの事業に関心をもってくださり、とても大切なこと、ぜひ協力したいとの言葉をいただきました。しかし、帰国者の抱える問題が、パラナ州では一般的にあまり知られていないことが問題である、ということから、12月11日に開かれるセミナーで、この事業を発表し、広く知らせることになりました。セミナーの参加者は、大学、教員組合、教育機関、教育審議会などの教育関係者です。残念ながら私は帰国してしまうため、私の担当者が代理で発表する予定です。

帰国児童生徒アンケートの再実施

- ★言葉や文化の適応サポート（州＝連邦大学：教育・外国語・心理学部）
- ★心の居場所づくり（州＝連邦大学＝ABD） ※＝印は連携のこと。

また、日本だけでなく海外から帰国する児童生徒の書類整理、教員のプロジェクトであるPDEや大学へ研究テーマとして紹介、退職した日系人との連携なども提案しました。



山脇小百合先生とABD平松会長



パラナ州教育局長

ここに至るまでには長い歴史があります。1990年に日本の出入国管理法が改正され、日系ブラジル人就業者の受け入れが始まりました。いわゆる出稼ぎのスタートです。



加藤てるお州議員



連邦大学のテルミ先生とルイス先生

それから22年かけて、日本における日系ブラジル人児童生徒に対する支援体制が確立されてきました。一方、2008年の世界的経済危機をきっかけに、2011年には東北地方太平洋沖地震の影響で、この5年間で約10万人の日系ブラジル人がブラジルへ帰国しています。5年という短い期間のため、パラナ州では今まであまり問題視されていませんでしたが、今回の調査で、出稼ぎの犠牲となっている子どもたちが多くいることを伝えることができました。まだまだ道のりは厳しいですが、これを第一歩として、今後も各関係機関と連携をとり合い、支援体制を確立していきたいです。

ホーザ先生との合同報告会

3ヶ月の活動を通して、パラナヴァイ市で私の事業の目的や活動内容等が知られていないと感じました。また、豊橋で研修を受けた先生の活動についても、今まで発表する機会がなかったといいます。そこで、マリア・ホーザ先生の帰国後、合同報告会をしたいとお願いしたところ、校長先生の会議と兼ねて行うことができました。豊橋市とパラナヴァイ市の関係をさらに強化していくためにも、まずは学校のトップにいる校長先生に理解していただけたことは、とても意義があったと思います。今後は、5人の研修員が、豊橋で研修したことを積極的に広めていってくれることを願っています。

ホーザ先生の話に興味津々



またまたぶらっとブラジルク・イ・ス♪

ブラジルで飲み物を飲むとき、日本で馴染みの大きなカップのほか、お猪口くらいの小さなカップが出てきます。ここで問題！ 小さなカップは何に使うのでしょうか？

- ①ハチミツを入れるため
- ②つまみのナッツを入れるため
- ③コーヒーを入れるため



どうしてこんなに小さいの？

答え：③（ブラジルでは、大きなカップで紅茶を、小さなカップでコーヒーを飲みます。ブラジルのコーヒーは濃厚で、あらかじめ大量の砂糖が入れられていることが多いため、とても甘いです。ちなみにマテ茶などのお茶にも砂糖を入れて飲みます。また、アイスコーヒーはなく、暑い日もホットでグイッと飲んでいきますよ。）

◆◇◆3ヶ月間お付き合い下さり、ありがとうございました◆◇◆